

平成26年度 財団法人鳥取県東部環境管理公社 事業計画

1. 基本方針

アベノミクスによる景気回復への期待感が高まる中、環境部門では、循環型社会形成に向けた取組みが着実に進展している。平成26年には、「持続可能な開発のための教育に関するユネスコ世界会議」が日本で開催されることになっており、環境教育等「人づくり」の促進が期待されている。また、日本人の伝統的な食生活「和食」がユネスコ無形文化遺産に登録され、自然との共生も重要となっている。このような中、公益法人制度改革における移行期間が平成25年11月末をもって満了した。速報値によれば、旧公益法人24,317法人のうち44%の9,054法人が公益法人に、11,682法人が一般法人に移行している。今後、税制や予算など多岐にわたる新しい制度のもと当公社にとっても、いかに地域社会に貢献し、自らが発展を遂げることができるのか、真価を問われることになる。

当公社は、設立してから18年目を迎えることになる。平成26年度は、リファレンいなば、因幡霊場及び白兔グラウンドゴルフ場の3施設が、向こう5年間、指定管理者として東部広域から改めて指定を受けることになる。また、環境クリーンセンター業務の一部は従来どおり受託して管理運営することになる。当公社は平成26年4月1日から、公益財団法人に移行することから、これらの受託業務や指定管理業務について今日まで積み上げてきた実績と貴重な経験をもとに、5年後を見据えた中期ビジョン目標を設定し、効率的で適正な管理運営に努めるとともに更なる体質強化を図り、信頼される公社づくりを目指すものとする。

また、東部広域行政管理組合及び関係市町のご指導を得ながら、東部再生資源事業協同組合や大学、関係企業及び地域住民などとのネットワークを構築して、公益法人としての自立を磨き、実行力のある公益活動を推進していくものとする。

2. 公益目的事業

I リファレンいなば事業

「ごみの少ないライフスタイルを考えよう！」のキャッチフレーズに、鳥取県東部圏域内の情報発信の役割を担うことで、人々の日常生活の中から、ごみ発生抑制や再使用・リサイクル等によるごみの減量化を進めるとともにこれら「4R運動」を展開することで「循環型経済都市づくり」を推進していく。また、館内の展示資料、体験内容、広報・チラシ等の改善・充実を図り、外部イベントや地域行事に積極的に参加する。また、環境問題は一人一人の問題であるとの認識に立ち、地域住民のごみ問題、環境問題等の意識啓発活動を積極的に推進する。さらに無償ボランティア「エコフレンズ」の育成充実を図り、実効力のある体制の確保を図る。

平成26年度は、リファレンいなばの認知度や誘客数の増加を図るため、その強化対

策として、「地域の環境キーステーション」としての機能を付加し、「体感、実感、エコのこころ」をテーマに次の事業を実践していく。そして地域に愛される施設を目指していくこととする。

1. 啓発メニューの拡充
2. 周知・広報
3. 外部主体との連携
4. エコのこころを持った人づくり

(1)リサイクルに関する意識啓発活動

廃棄物の減量化及び資源の有効利用を促すため地域住民の意識啓発業務として、次の事業を行う。

①「4R運動」の推進

廃棄物の少ない循環型社会を構築するために必要な「4R運動」を中心とし、ごみの減量化及び再利用、再資源化等の情報を整備して、住民意識の喚起を図る。

- ・リフューズ・・・要らない物は断わり、ごみを発生させない(発生抑制)
- ・リデュース・・・食べ残し、使い残しを無くし、有効利用を考える(工夫して減らす)
- ・リユース・・・捨てないで生かして使う。再使用。リターナブル製品の使用(再使用)
- ・リサイクル・・・徹底した分別排出を行い、リサイクルをし易くする(再利用)

②リサイクル体験教室の開催

③啓発用展示物及びリサイクル体験コーナーの整備、充実

④来館者に対する啓発説明の充実

⑤講演会の開催

⑥リサイクルイベントの開催

イ. ごみ・環境問題、分別排出の方法、リサイクルに関する研究や資料等の展示、講演会等の企画を主体として、リサイクルマーケット、食べ物バザー、遊びのコーナー等を交えた、賑わいあるイベントを開催する。

ロ. 夏休み期間中に親子会を開催し、ごみや環境問題に共に触れ合い、認識を深める会を開催する。

ハ. 綿花の栽培から木綿作り

ニ. 季節を楽しむ

ホ. ぬか床作り

ヘ. 食材の使い切り

ト. リメイク手づくり市の開催

チ. 大人の社会科見学(古民家訪問)

⑦エコバスツアーの実践

⑧モニターによるごみ環境家計簿の実践

⑨ごみパトロールの実践

(2)リサイクル情報の収集及び提供、リサイクル活動の支援に関する事業

①情報提供の充実

- イ. ホームページリニューアル
- ロ. リファレンスプレスリニューアル
- ハ. 情報コーナーの充実
- ニ. ごみ出張講座(ごみパトール名称変更)
- ホ. 幼稚園児を対象としてプログラム:

②リサイクルコーナー

- イ. アフターフォロー教室
- ロ. 江戸のリサイクル研究
- ハ. 職人の技を学ぶ

③リサイクル情報の収集と提供

ごみ問題やリサイクル等に関する情報を収集、蓄積し整備を図るとともに、公社ホームページ、広報誌等を活用して情報を提供する。

- イ. ごみの分別及び環境情報、リサイクルイベント情報、リサイクル家具等の情報、エコショップ情報等の整備、更新。

④団体等のリサイクル行事及び地域活動の支援

公民館、地域各種団体等がリサイクル行事等を行う場合に必要な、啓発パネル、リサイクル作品、研究資料等の貸出し、講師派遣等の支援を行う。

Ⅱ 因幡霊場事業

人生終焉の場にふさわしく、管理体制の更なる充実と、健全で円滑な業務運営を図る。

また、利用者サービスの一環として行っている、喫茶・売店の運営事業、収骨室への案内、親族待合室の整理・整頓及び畜類納骨・供養施設の維持管理並びに畜魂慰霊等についても利用者の心情に応えるサービスの提供と業務の推進に努める。

イ. 事務員・技術員・パートタイマーの職員間の連携を密にして更なる管理体制の充実を図るとともに、財務・会計管理の徹底と効率的運用を行う。

ロ. 人生終焉の場にふさわしい、礼節をわきまえた業務を推進する。

Ⅲ 白兔グラウンドゴルフ場事業

東部圏域の住民福祉の増進を目的にスポーツ、レジャー施設として建設された白兔グラウンドゴルフ場は、「笑顔で応対・芝管理の徹底！」をキャッチフレーズに掲げ、高齢者の利用が多い中で、笑顔と親切丁寧な応対に心がけると共に、施設の安全かつ愛される

施設づくりに邁進する。さらに、平成27年4月1日には日本グラウンドゴルフ協会の認定コースの更新時期となり平成26年度はコースの改修が余儀なくされている。

イ. 芝等の適正管理と機械化等による自家作業への転換を推進する。

ロ. 月例大会の計画的開催と団体利用の受け入れを拡大する。ちなみに公社主催の大会は年12回を予定する。

ハ. 夏期(6/1～8/10)の1時間延長を実施する。

尚、この白兔グラウンドゴルフ場は昭和59年から平成8年までの13年間、フルネイムの一般廃棄物最終処分場であった。閉鎖後は処分場跡地という暗いイメージの払拭と、有効利用策として圏域住民の健康増進に寄与することを目的として整備されたものである。当処分場は、埋立物及び水質が安定するまでは当時の管理者が管理を行う義務があり、定期的な水質検査やガス検査等を同組合が実施し、処分場機能を管理し維持している。

3. 収益事業

I 因幡霊場喫茶売店事業

鳥取県東部広域行政管理組合より指定管理を受けた因幡霊場において、その利用者の利便向上を図るため、飲食ならびに物品の販売を行う。

II 因幡霊場畜魂供養事業

当因幡霊場において、動物の火葬を行う中で、お骨を持ち帰ることが困難な利用者に対して納骨と供養を行う。

4. その他事業

I 環境クリーンセンター事業

資源回収工場機能を有する環境クリーンセンターでは、再生資源物の良質化が要求される中であって、東部再生資源事業協同組合との連携のもと、鉄、アルミ、ガラス、ペットボトル、食品トレイ等の適正な分別回収と安全な現場作業を徹底する。また、埋立作業についても安全かつ安定した処理作業に努めるものとする。

また、住民に施設を公開して、現場でなければ見えないごみ処理の実態、認識を深めていただく。

5. 管理部門

受託諸業務の適正かつ効率的運営と経営の健全化に努め、公益法人としての信用と自主・自立の活動が可能な公社の体質強化を図るものとする。

各事業と受託年月日

| | |
|------------------|-----------|
| リファレシイナバ | 平成 9年4月1日 |
| 環境クリーンセンター | 平成 9年4月1日 |
| 因幡霊場 | 平成10年4月1日 |
| 白兔グラウンドゴルフ場 | 平成12年8月1日 |
| ペットボトル等リサイクルセンター | 平成14年4月1日 |
| 食品トレ | 平成15年4月1日 |

(現行体制)

合計役職員数 常勤役員1名、事務員3名、技術員13名、常勤嘱託員3名、
非常勤嘱託員7名、パート7名、計34名

(平成26年4月1日予定)